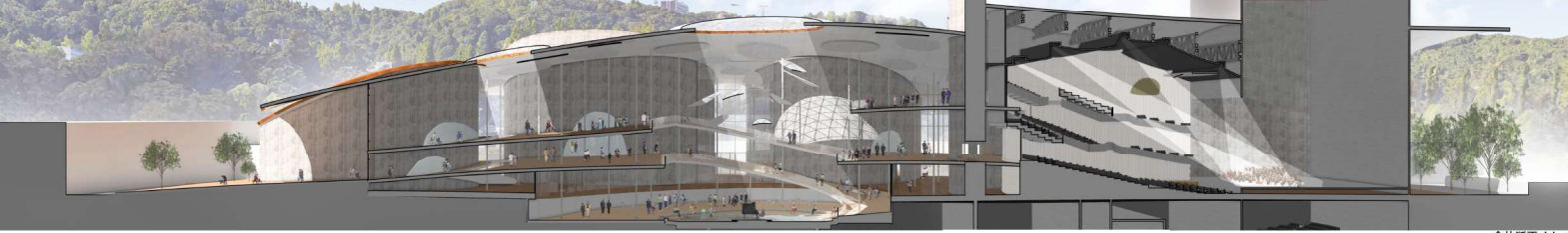


# 大地の空間、活動のシード(種)

その昔、東北地方の人々の暮らしは自然と連続していました。海で採れたものを山で採れたものと交換し、その間に生活という営みが存在していました。近代以降文明が進化し、災害が訪れるたびに私たちの生活は機能分化し、いつの間にか安心・安全という制度の枠にはめられ、自由を奪ったように思えます。一体感を喪った代わりに得た“機能”と“安全”が私たちの自由を分断したのです。私たちはここに“大地”と呼ばれる緩やかに連続したスロープ状の床と“活動のシード(種)”と呼ばれるアクティブな活動の空間、さらには周辺の風景や自然と緩やかに融合する建築を提案します。大ホールはワインヤード型を想定し、音楽と聴衆との一体感を重視します。この考えは建物全体に波及し、建物そのものがワインヤード型のホールと捉えます。

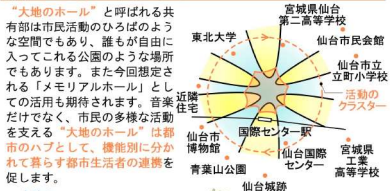


全体断面イメージ

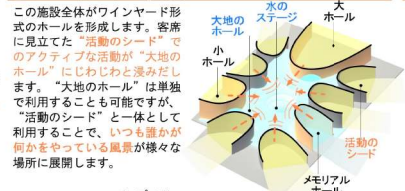


1F交流ロビーからイベントスペース(休のステージ)を望む

## “都市のハブとしての”大地のホール



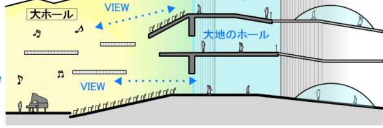
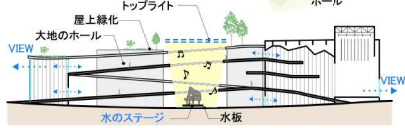
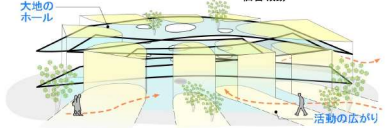
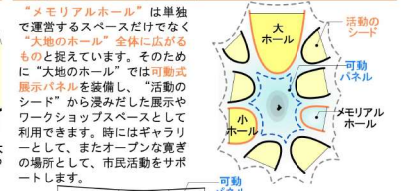
## “全てが”メモリアルホール”である



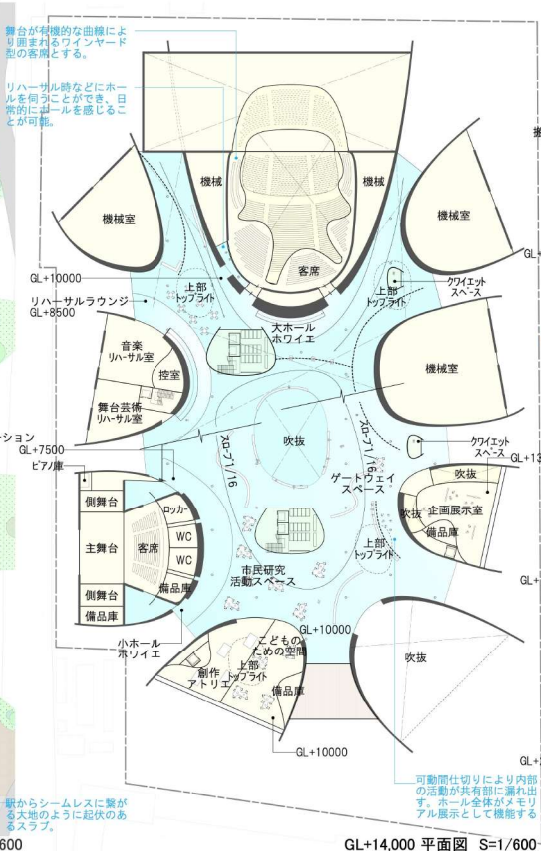
## “大地のホール”と“活動のシード”



## “大地のホール”のフレキシビリティ



一体感を重視したワインヤード型大ホール



自然の風景と繋がるメモリアルホール

B1Fレベル クワイエットスペース



都市のハブとしての全景

## “設備・環境計画

